

<b>明治</b>	1893年	尚家資本による新聞社設立
<b>昭和</b>	1940年	1県1紙の方針により県内3つの新聞社が沖縄新報へ統合
	1942年	日本放送協会沖縄放送局(後のNHK沖縄放送局)ラジオ放送開始 (戦争により1945年放送中止)
	1945年	琉球新報の前身であるウルマ新報発刊 (1951年琉球新報へ改名)
	1948年	沖縄タイムス創刊
	1949年	米軍指令でラジオ試験放送
	1950年	八重山毎日新聞創刊
	1954年	琉球放送(RBC)ラジオ開局
	1955年	宮古毎日新聞創刊
	1957年	極東放送開局
	1959年	沖縄テレビ(OTV)開局
	1960年	琉球放送(RBC)がテレビ放送開始
	1960年	ラジオ沖縄(ROK)開局
	1968年	宮古新報創刊
	1972年	鹿児島県沖繩間カラーマイクロー回線開通 (カラーテレビ放送開始)
	1977年	八重山日報創刊
	1984年	極東放送解散、新たにエフエム沖縄開局
<b>平成</b>	1995年	琉球朝日放送(QAB)開局
	2006年	テレビワンセグ放送開始
	2009年	琉球新報、沖縄タイムスタリ廃止
	2011年	地上波デジタル放送へ全面移行
	2014年	スマホ・パソコンで聴けるラジオ radioXエリアフリー配信スタート

# 沖縄マスコミ年表

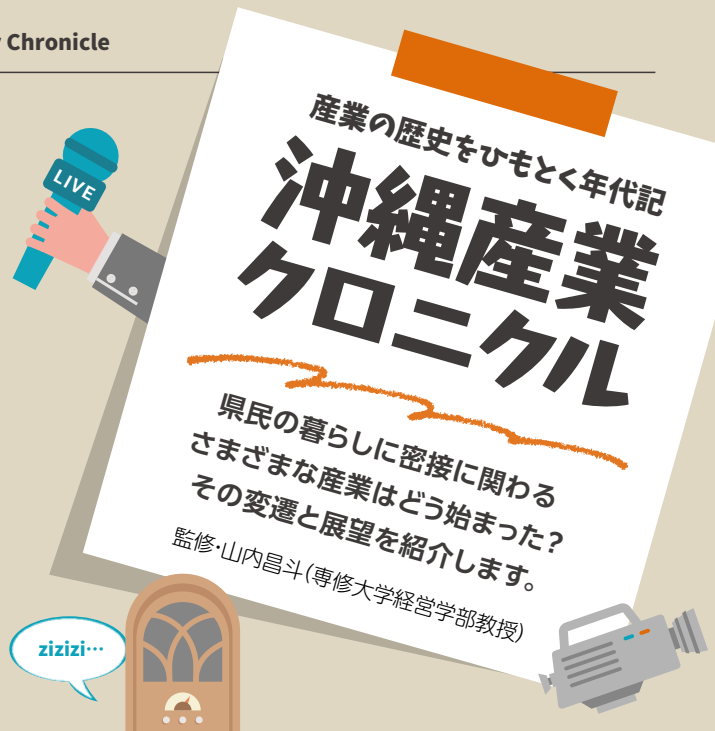
## 第1回 マスコミ編

新聞、ラジオ、テレビは報道から始まり娯楽へと

沖縄の近代の生活で最初に報道メディアとして登場したのは、新聞でした。明治時代、琉球王朝を築いた王族、尚家の資本で新聞社が設立されたのがその始まり。その後、時代は大正、昭和へと移り変わり、太平洋戦争の影響が沖縄にも及び始めた時期に、NHK沖縄放送局の前身である日本放送協会沖縄放送局がラジオ放送を開始。ところが戦争によりラジオも新聞も発信手段を断たれてしまいました。

戦後、世の中がまだ混乱状態にある中で、いち早く報道を始めたのもやはり新聞でした。米軍政府および沖縄民政府の機関

新聞、ラジオ、テレビは報道から始まり娯楽へと



産業の歴史をひもとく年代記  
**沖縄産業 クロニクル**  
県民の暮らしに密接に関わる  
さまざまな産業はどう始まった?  
その変遷と展望を紹介します。  
監修・山内昌斗(専修大学経営学部教授)

本部町で録音された  
幻のラジオ音源を  
再現したCDも

当時の報道は  
新聞がメイン!

復帰式典では  
カラー放送で  
東京から中継!

注目トピックス



3 (国立公文書館「コラム 沖縄の日本本土復帰とメディア報道」より)

### 夢のカラーテレビ放送

東京や大阪でテレビ放送がカラーになったのは1960(昭和35)年だが、沖縄で実現したのは復帰の1972(昭和47)年。5月15日の放送開始と同時にモノクロからカラーへ移行。ただ、回線の関係でモノクロとカラーが交互に放送されていた。



2 (おながく村より資料提供)

### 復帰前に普及親子ラジオ

終戦後の物不足の時代、ラジオ受信機は高価で入手が困難。そこで米軍の援助資金で各自治体にラジオ有線放送の共同聴取施設「親子ラジオ」が設置された。自治体のお知らせのほか、民謡や歌謡曲で編成した自主番組が放送され人気を博した。



1 (琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ「近代沖縄と新聞」より)

### 明治時代は新聞激戦期

1893(明治26)年に尚家資本の新聞社設立を皮切りに、寄留商人系資本、地元民間系資本と、15年ほどの間に新聞社の創設が相次ぎ報道競争が勃発。1940(昭和15)年の1県1紙の方針により、当時3社あった新聞社が統合され沖縄新報となった。



テレビ放送の回線開通は大ニュース!



1969年頃のOHK放送センター内スタジオ収録(NHK沖縄放送局史より)



電氣屋の店先でテレビに見入る人々(那覇市歴史博物館提供)



沖繩テレビ開局日の新聞(1959年11月1日/琉球新報)



1954年頃の琉球放送首里スタジオ(琉球放送50年史より)



戦後の情報源は新聞! 読者は発行を待ちわびていた



1945年に発行されたウルマ新報(沖縄県公文書館より)

### 時代はデジタル! ネットでも確かな情報を発信

インターネットとスマホの普及でマスコミは総デジタル時代を迎えた。新聞はデジタル版、ラジオはインターネットラジオ、テレビは無料動画配信サービスで、既存の機器がなくても視聴できる利便性を図っている。ニュースの信頼性が問われる時代、マスコミのしっかりした取材に基づく確かな報道の重要性はより高まっている。

